

家庭の学びファシリテーターのすゝめ



※ファシリテーター
: 意見を引き出し、学びを促進する人

子どもは、生まれた時から、身近な環境を通して様々な情報を感じ取り、「学び」を進めていきます。その際、周囲の大人とのふれあいや語りかけによって、「自分が大切にされている」ことを感じ取ると、安心感や他者への信頼感をもつようになり、新たな学びへ向かう意欲や自信を高め、自分の世界を積極的に広げていくようになります。家庭においては、そうした子どもの挑戦を後押しするよう「その子なりのよさや成長の過程を認め、励まし、子どもの自己決定を大事にする」ことで、子ども自らの学びを促し、これからの未来を切り拓く資質・能力を最大限伸ばすかかわりをしていきましょう。



ファシリテーター3か条

その子なりのよさに目を向ける

成長の過程を認め、励ます

子ども自身の自己決定を促す

乳児期(0歳)～

学びの土台 愛情いっぱい

心と体でふれあおう



こんな声かけが「いいね」👍

〇〇ちゃん、だいすきだよ。
笑顔だから嬉しいんだね。
～すると気持ちがいいね。
～は、〇〇というんだよ。
～だから泣いたんだね。
大丈夫だよ。側にいるよ。

スキンシップや温かな表情、言葉かけから、「自分が大切にされていること」を感じ取り、親子の愛着が形成されます。そうしてたくさんの愛情を感じることで、他者を信頼し、安心して周りのひと・もの・ことに働きかけられる土台がつけられます。



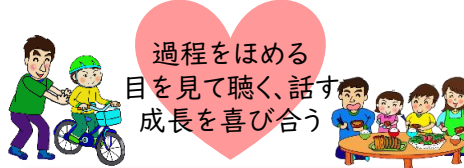
学びに向かう
原動力

安心感・信頼感

幼児期(3歳頃)～

学びの芽生え 興味いっぱい

思いを受け止め、一緒に行動しよう



こんな声かけが「いいね」👍

私は～が心に残ったけど、
〇〇はどうだった？
～を頑張ってるね。嬉しいよ。
やっているところを見せて。
～までできるようになったね。
～を続けていてすごい。

乳幼児期に獲得した安心感・信頼感を基盤に、興味や関心を広げていきます。この時期の遊びは「やってみよう」という思いを基に、頭も心も体も繰り返し動かすことで、学びの芽生えへとつながっていきます。

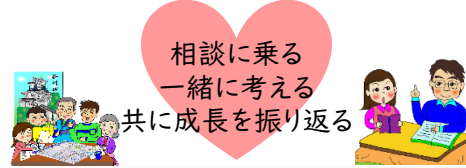


自己肯定感・他尊感情

児童期(6歳頃)～

自覚的な学び やる気いっぱい

成長を認めて、寄り添おう



こんな声かけが「いいね」👍

〇〇は、どうしたいの？
今日はどんなことを学校で
学んだの？友達の意見に
ついてどんなことを考えた？
前と比べて～になっているね。
ずっと～していたものね。

幼児期までに体験を通して獲得した自信や他者を大切にする気持ちを基に、自分の取り組むべき課題を自覚して学びを進めます。その際、解決に向けて仲間と協力したり、進み具合を確かめ、改善したりすることで、より意欲的に追究するようになっていきます。



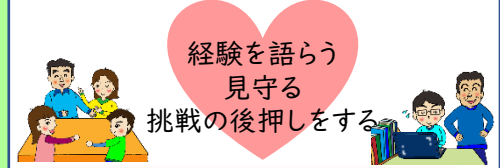
メタ認知能力・コミュニケーション力

※メタ認知能力: 自分を客観的に認知する能力

青年期(15歳頃)～

創造的な学び 夢いっぱい

心をつないで、応援しよう



こんな声かけが「いいね」👍

私は、〇〇ぐらいの頃には
・・・を頑張っていたよ。
～について考えているんだね。
もうちょっと聞かせて。
これまで～してきているから、
〇〇なら、きっと大丈夫！

児童期までに少しずつ発揮し続け、育ててきた「3つの創る力」をより効果的に働かせながら学んでいきます。自分の将来の夢や地域の課題など正解のない問題にも、最適解や納得解を生み出そうと取り組みます。

